

ユニバーサルデザインからみた駐車場の  
利用者評価に関する研究

調査報告書  
(概要版)

平成 19 年 3 月

財団法人 東京都道路整備保全公社

## 1. 研究の目的

成熟社会の駐車場整備では、多様な属性の市民が「使いやすい」駐車場を整備していくことが重要である。本研究では、高齢者・障害者をはじめ、多様な属性にある駐車場利用者の駐車挙動を観測するとともに、駐車場整備について市民が重視する要素を評価することにより、これからの駐車場整備に求められる視座や重視すべき点を明らかにすることを目的とした。

## 2. 予備調査

車いす使用者1名を被験者として、一般的な駐車場における駐車挙動と、駐車場選択要素についてのヒアリングを行った。その結果、挙動調査から、車いす使用者が駐車をする場合、駐車スペースの奥行きは十分に確保されていることと、切り返しのスペースを考慮に入れる必要があることが明らかになった。また、駐車場選択要素調査から、従来の一般的な駐車場は、車いす使用者にとって「使いにくい」整備にとどまっていることが明らかになった。

## 3. 駐車挙動に関する調査

都内の路外駐車場において、高齢者・障害者・女性を対象とした計7名の被験者による駐車挙動調査を行った。その結果、高齢者は初回の駐車挙動に長い時間を要すること（図1）駐車スペースに対して運転席側に寄って駐車する傾向があることが明らかになった（図2・図3）。

また、属性に関わらず、駐車に要する時間は、広幅員の駐車スペース（3.0m）に入庫する場合の方が従来幅員の駐車スペースの場合よりも短く、かつ、入庫時に前面通路に車体が出る面積が小さくなることも明らかとなった。このことから、幅員の広い駐車スペースに整備することは、利用者の「使いやすさ」が向上するうえ、駐車場内の安全性向上にも寄与するものであることが明らかになった。

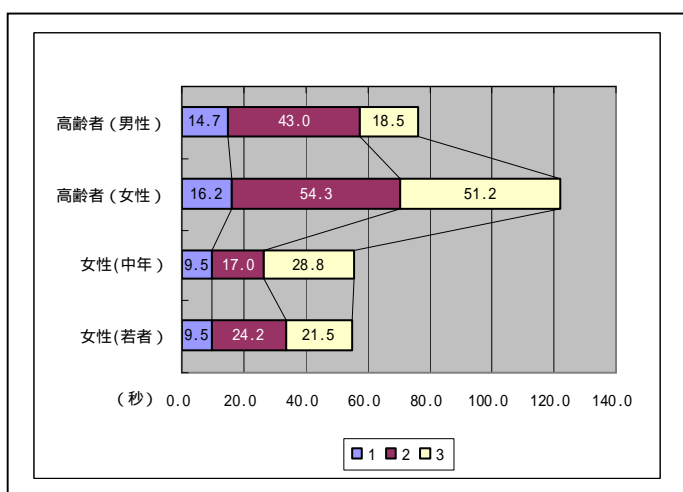


図1 属性別走行時間1回目



図2 軌跡  
(高齢者)

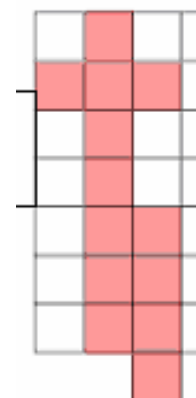


図3 軌跡  
(女性非高齢者)

一方で、車いす使用者については、ユニバーサルデザイン（UD）に配慮した駐車場整備基準である2.7m幅の駐車スペースで、ドアの開閉と乗降の可否について調査を行った。その結果、車いすを広げることはできたが、周囲の状況によっては移乗が困難であることが明らかになった。

#### 4. 多様な市民属性による駐車場整備の評価

先述の被験者を対象に、駐車場を選択する際に重要と考える要素を質問する一対比較形式によるアンケート調査を実施し、属性別に駐車場整備において重要な要素を明らかにした。まず、高齢者は「歩行者用通路の整備」を重視する傾向が強かった一方で、女性は「防犯面の整備」の重要度が高いことが分かった（図4）。障害者の場合は、「障害者用スペースの設置」や「障害者用スペースの有無の表示」を重視しており、広幅員の駐車スペースが適切に確保され、かつ障害者用スペースの有無や位置に関する情報が分かりやすく提供されることを望んでいることが分かった。また、雨天・荒天時に対応した駐車場整備を特に重要と考えていることも明らかになった。

このように、駐車場整備について重視する要素については、性別や年齢層、障害の有無によって異なる点があり、属性に応じた駐車場の整備ニーズが存在することが明らかとなった。

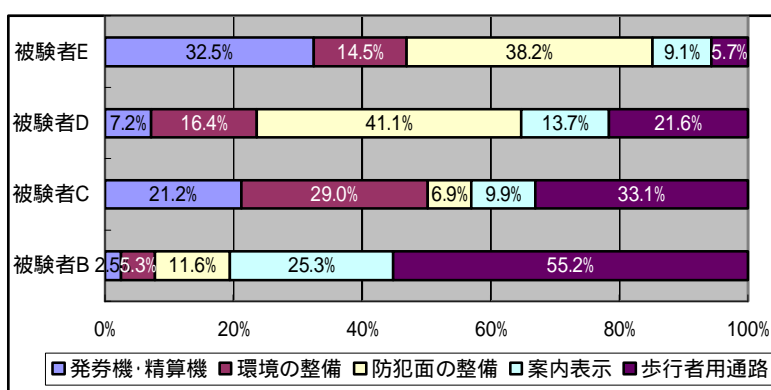


図4 総合重要度の比較（被験者B・C；高齢者 / 被験者D・E；女性(非高齢者)）

#### 5. 駐車場の選択理由における重要度の調査

広く市民一般を対象に、駐車場を選択する際に重視する項目や要素に関する一対比較形式のアンケート調査を行い、多様な属性の市民が駐車場整備に関してどのような点が重要であると評価しているかを明らかにした。市民一般が駐車場を選択する際に重要であると考えている項目として、経済性や利便性の重要度（ウェイト）が特に高くなっていることが明らかになった。しかし、これらの第一義的な要因が駐車場選択要因に占める重要度（ウェイト）は4割弱に止まっており、「女性」や「駐車が不得意であると感じている利用者」は、むしろ、駐車場の「使いやすさ」や「分かりやすさ」を重視する

傾向の強いことが明らかとなった（図5）。

また、「女性」や「駐車が不得意であると感じている利用者」は、「使いやすさ」に含まれる要素のなかでも「駐車スペースの幅」を重視していることが分かった（図6）。

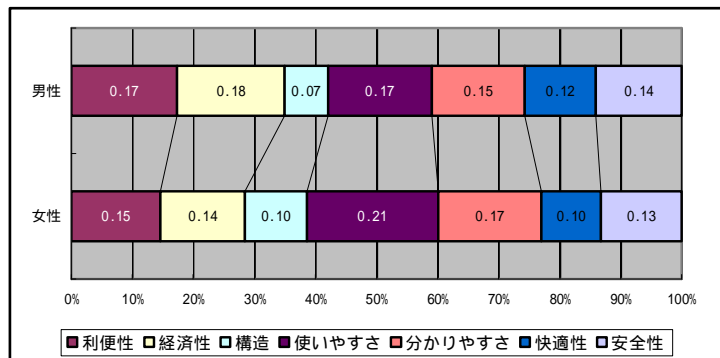


図5 性別による総合重要度の比較

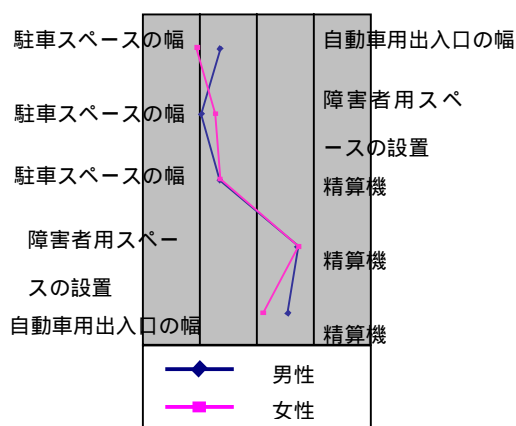


図6 性別による使いやすさ項目の比較

## 6. 調査の考察と今後の課題

わが国では、モータリゼーションの進展が今日もなお続くところであるが、市街地における路外駐車場には「空車」も目立つようになった。このことは、（特に民間）駐車場の自律的な供給の阻害要因ともなっており、既存の駐車場ストックを有効活用していくかがこれからの駐車場政策の要請でもある<sup>1</sup>。

従って、これからの駐車場整備では、既存駐車場における、利用者の使いやすさや安全性、分かりやすさの水準を高めるための整備に転換していくことが求められると考えられる。本研究で実施した種々の調査からは、「女性」や「駐車が不得意であると感じている利用者」を中心に、駐車場の「使いやすさ」や「分かりやすさ」が、経済性や利便性といった第一義的な要因と同程度かそれ以上に重視していることが明らかになっており、先に述べた考え方は成熟社会にある今日的な要請でもあると言える。すなわち、ユニバーサルデザイン（UD）に配慮した駐車場整備を推進することは、これからの駐車場整備においては重要な視点であり、その効果は移動困難者のみならず、「女性」や「駐車が不得意であると感じている利用者」など、多くの市民に波及すると考えられる。

しかし、障害者による駐車場整備の評価では、障害者（車いす使用者）は、障害者用スペースの有無に関する情報や満空情報、屋内駐車場の整備などの要素が特に重視されていた。すなわち、健常者と障害者の駐車場整備に対するニーズには少なからず違いが見られることから、例えば、広幅員の駐車スペースを整備することで、「使いやすさ」を享受する市民属性が拡大した場合でも、その枠組みでは対応しきれないニーズ（実際に本研究の調査でも、UD駐車場の幅（2.7m）では、車いす使用者の乗降は難しいことが明らかになった）を見極め、それにどう対応していくかを考えることが重要である。

<sup>1</sup> 吉田 樹・竹内伝史・秋山哲男：街路環境の影響を考慮した市街地における駐車場選択モデルの構築，土木計画学研究・論文集 vol.20-3，pp.581-588。